

講義コード	4N008011
講義名	ケアマネジメント論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4409
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

目的

ケアマネジメントは、生活ニーズと社会資源をつなぐための手法であり、さまざまなサービスを一体的・総合的に提供するための支援方法である。ケアマネジメントは高齢者のみを対象に行うものではないが、介護保険下でサービスを利用する場合、ケアマネジメントは不可欠となっている。地域包括ケアシステムが推進される中、看護師にとってケアマネジメントを学ぶ意義は大きい。このような観点からケアマネジメントの基本理念、意義、方法などを理解する。

到達目標

1. ケアマネジメントの意義、過程、機能を理解する。
2. 介護保険下におけるケアプランの果たす役割を理解する。
3. 障害者ケアマネジメントの基本理念、原則を理解する。
4. ケアマネジメントを行う従事者に求められる資質を検討する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

1. ケアマネジメントの概念・構成要素・過程
2. 介護保険におけるケアマネジメント
3. ケアプラン作成の実際（事例）
4. 介護保険によるケアプランの実際と看護職との連携（外部講師）
5. 障害者ケアマネジメントの必要性、基本理念、実施体制
6. 多職種参加を想定したカンファレンス（演習）
7. ケアマネージャーに求められる資質

成績の評価

課題レポート80%、授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

学習内容：介護保険制度、障害者総合支援法の復習

テキスト

プリント配布

参考資料

「ケアマネジメント原論」(ワールドプランニング)

雑誌「ケアマネジャー」(中央法規出版)

オフィスアワー

金曜日：12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701研究室 s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	4N080011
講義名	学校保健論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4205
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

三上眞美（養護教諭）

目的

学校保健の意義と養護教諭の職務を理解し、学校保健推進に必要な学校保健安全法や教育関連法規について学修する。また、現代的な健康課題の理解と対応、学校生活上で配慮の必要な児童生徒の理解と支援や、保健管理（学校感染症予防、学校環境衛生、アレルギー対応など）について学修する。

到達目標

1. 学校保健の意義・目的、歴史的背景が分かる
2. 学校保健の構造を理解することができる
3. 養護教諭の職務と保健室の役割について説明できる
4. 保健管理・疾病の予防と管理についての対応の基本が分かる。
5. 保健教育の位置づけや実践について理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 学校保健の意義・目的と、歴史的背景
2. 学校保健における養護教諭の役割
3. 保健管理（学校環境衛生、健康観察、健康診断、学校感染症予防など）
4. 保健室で行う救急処置と校内体制について
5. 健康診断等の結果から健康課題を把握する方法
6. 保健教育について
7. 現代的な健康課題に向けた対応

成績の評価

レポート40%、授業への取り組み度60%（授業後のミニレポート）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

- ・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
- ・現代的な児童・生徒の健康課題についてどんな課題があるのかを予習しておき、その中で必要とされる養護教諭の役割や求められる能力について、自分の意見を発表できるようにしておくこと。

と。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。但し、保健師課程でない学生も履修できる。

テキスト

「公衆衛生看護学.jp 第4版」 (インターメディカル)

参考資料

「新訂版 学校保健実務必携 第4次改訂版」 (第一法規出版)

「学校保健ハンドブック 第6次改訂」 (ぎょうせい)

「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 ～養護教諭の役割を中心として～」 (文部科学省)

講義コード	4N135011
講義名	公衆衛生看護計画論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4204
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕
 室谷牧子〔保健師〕
 西井崇之〔保健師〕

目的

地域診断により実習地域の健康課題を明確化するとともに、個人（家族）・集団・地域の健康課題を解決するための家庭訪問、健康相談について体験的に学修し、保健師活動に必要な基礎的能力を養う。さらに、結核対策および患者・家族支援における保健師の役割を考察する力を養う。

到達目標

1. 地域診断の目的・方法、保健師の役割を理解できる。
2. 地域診断に必要な情報を収集し、可視化（グラフ化、図表化等）できる。
3. 収集した情報をアセスメントし、実習地域の特性と健康課題を明確化できる。
4. 新生児訪問の目的・方法・内容を理解できる。
5. 紙上事例を用いて情報収集・アセスメント、健康課題抽出を行い、支援計画を立案できる
6. ロールプレイにより、事例に必要な支援を実施し、評価できる。
7. 乳幼児健診の目的・方法・内容を理解できる。
8. 紙上事例を通して、1歳6か月児健診の問診・健康相談計画を立案できる。
9. ロールプレイにより、1歳6か月児健診の問診・健康相談を実施し、評価できる。
10. 新生児訪問および1歳6か月児の問診・健康相談を通して、公衆衛生看護に必要なコミュニケーションスキル、家庭訪問スキル、健康相談スキル、保健指導スキルを習得できる。
11. 感染症（結核）に対する保健活動の目的・方法と支援内容を理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2～11 地域診断① 情報収集、アセスメント
- 12,13 地域診断による住民ニーズの施策化（特別講義）
- 14,15 地域診断演習② 地区踏査
- 16,17 地域診断演習③ 健康課題の抽出
- 18～20 地域診断演習④ 発表資料作成、発表
- 21 実習計画の立案
- 22～25 新生児訪問

26～28 乳幼児健診
29,30 結核対策と保健師活動

成績の評価

レポート50%、グループの成果物10%、授業への取り組み度40%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
特に、地域診断、家庭訪問、乳幼児健診、保健指導等について復習しておくこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学jp 第4版」（インターメディカル）
2. 「お母さんがもっと元気になる乳児健診」（メディカ出版）

参考資料

随時、紹介する。

オフィスアワー

平尾：水曜日12:10～13:00

室谷：水曜日12:10～13:00

西井：水曜日12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

平尾：5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp

室谷：5号館7階C709研究室、muroya@kansai.ac.jp

西井：5号館7階C721研究室、nishii@kansai.ac.jp

講義コード	4N143011
講義名	災害・国際看護論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合実践看護学分野
科目ナンバリング	N4-4105
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 堀本 知春	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

堀本知春〔看護師〕

目的

わが国では、地震や風災害などの自然災害が多発し、人々に甚大な被害をもたらしている。世界では貧困や飢餓、難民問題、人種差別など多くの課題がある。このような災害や国際的な問題の解決には、人々の健康・生活を守る看護職者の活躍が益々期待されている。本科目では、災害における人々の生活の変化や反応を理解し、災害看護を実践できる基礎的な知識と、文化の異なる人々の多様性を理解し、看護を実践するための基礎的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 災害看護に必要な基礎的な知識を理解することができる。
2. 災害看護における看護活動の実際を理解することができる。
3. グローバルヘルスと国際看護の役割を理解することができる。
4. 国際看護における看護活動の実際を理解することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

1. 災害看護の歩みと災害医療の基礎知識
2. 災害サイクルと災害看護の役割
3. 災害看護における具体的な看護実践
4. 世界の健康問題と現状
5. グローバルヘルスの概要
6. 国際機関の役割と連携
7. EPAおよび訪日・在留外国人への医療と看護
8. 国際救援・開発協力における具体的な看護実践

成績の評価

筆記試験90%、授業への取り組み度10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践」(医学書院)

参考資料

授業中に紹介する。

オフィスアワー

火曜日 12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

horimoto@kansai.ac.jp

講義コード	4N150011
講義名	産業保健論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4206
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし
非常勤	徳永 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

徳永京子（保健師）

目的

産業保健活動の実際を理解し、事業者・勤労者への支援方法について学ぶ。

到達目標

1. 産業保健の理念と目的の理解
2. 産業保健の制度とシステムの理解
3. 産業保健における健康課題の理解
4. 産業保健活動の展開方法の理解

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 産業保健とは
2. 安全衛生活動について
3. ストレスチェックとメンタルヘルス対策
4. 作業関連疾患について
5. 慢性疾患等、治療との両立支援について
6. 子育て、介護と仕事の両立支援について
7. データをもとに健康づくり対策をつくる

成績の評価

試験40%、授業での成果物20%、レポート20%、授業での取り組み度20%、

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
テキストの産業保健活動について、読んでくること。

履修上の注意

保健師課程の選択科目であるが、看護師国家試験および保健師国家試験の出題範囲についても取り上げるので、可能な限り多くの学生に履修してほしい。

テキスト

「公衆衛生看護学.jp 第4版」(インターメディカル)

参考資料

「産業看護学」(日本看護協会出版会)

講義コード	4N246011
講義名	総合看護学実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N4-4107
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

看護系教員全員

目的

看護学実習で学んだ看護をふり返り、自らの課題に基づき、主体的・自律的に取り組み、関心の深い分野においてより看護の専門性を深め、看護実践能力を高める。

到達目標

1. 既習の知識・技術をもとに、主体的に実習に取り組むことができる。
2. 看護職としての責任と倫理をもとに自律的に行動ができる。
3. 保健、医療、福祉に携わるチームの人々と建設的な人間関係を築くことができる。
4. 実習を総合的に評価し、看護職としての自己の看護観を深めることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. 実習オリエンテーション（3年次2月）
2. 実習ガイダンス（4月）
3. 実習打合せ：学生自身で行う
4. 臨地実習（6日以上）
5. 担当教員からの指導、評価面談（3日以上）
6. 総合看護学実習発表会におけるポスター発表（9月6日午前）

*総合看護学実習要項を参照。なお実習方法などの詳細は分野によって異なる。

成績の評価

総合看護学実習評価表（60％）ポスター発表・実習記録・レポート等（40％）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

担当教員より個別に評価面談を行う。

自己学習

実習に必要な準備を各自で行う。

テキスト

関係する授業で使用したテキストを参照する。

参考資料

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

講義コード	4N319011
講義名	保健医療福祉政策論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N4-2309
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

室谷 牧子〔保健師〕
 清水 一二三〔保健師〕
 石川 節子〔保健師〕
 今津 弘子〔保健師〕

目的

行政の保健医療福祉計画と公衆衛生看護活動のつながりを学び、PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開を理解し、施策に関わる保健師の役割を考察する。
 公衆衛生看護活動の展開やハンセン病対策では演習によるアクティブラーニングを行うことで汎用的能力を育成する。

到達目標

- 1) 事例や健康問題を通じて行政サービスや制度化のプロセスとその思考過程を考えられるようになる。
- 2) 人々の暮らしや健康を支える保健医療福祉政策の仕組みについて理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／協働する力

授業計画

1. 保健医療福祉の財政と地方自治体の保健医療福祉計画① 清水
2. 保健医療福祉の財政と地方自治体の保健医療福祉計画② 清水
3. 行政で働く保健師の役割 自治体の施策と健康課題、保健活動の実際 石川
4. 地域保健活動の事例 若年性認知症本人・家族のニーズと保健師活動 室谷
5. ハンセン症対策を考える（ハンセン病療養所 見学演習） 室谷
6. ハンセン症対策を考える（ハンセン病療養所 見学演習） 室谷
7. ハンセン症対策の課題とこれからの我々の役割（演習・プレゼンテーション） 室谷
8. 保健活動の企画①（演習） 室谷
9. 保健活動の企画②（演習） 室谷
10. 保健活動の企画③（演習） 室谷
11. 保健活動の企画④（演習） 室谷
12. 保健活動の企画⑤（演習） 石川
13. 健康危機管理 避難所での保健師活動の実際 今津
14. 災害時の保健活動 室谷
15. 災害時の保健活動（演習） 室谷

成績の評価

日々の講義や演習に関心を持ち、主体的に参加しているかを自己学習^{20%}、講義や演習の取り組み度（質問や発言などの関心度、グループワークへの主体的参加状況）^{40%}、日々の学びの記録や課題レポート^{40%}をもって総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する

自己学習

保健医療福祉行政や日常の出来事、歴史的な背景に関心を持ち、日常的に新聞等に眼を通す習慣をつける。配布された資料やテキスト、参考書をよく読み、自ら必要な情報を収集し、授業の展開に合わせて必要な作業と学習を計画的に行なうこと。自己学習の目安は授業¹コマにつき、²コマ（180分）相当の予習・復習を行う。

履修上の注意

この科目は保健師国家試験受験資格を得るために必要な選択科目である。

テキスト

1. 「これからの保健医療福祉行政論第2版」（日本看護協会出版会）
2. 「公衆衛生看護学.JP 第4版」（インターメディカル）（2年次購入済み）
3. プリント配布

参考資料

随時提示する

オフィスアワー

12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C709研究室
muroya@kansai.ac.jp

講義コード	4N370011
講義名	老年看護学実習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N4-3413
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

岩井 恵子 森岡 朋子 川添 英利子（看護師）

目的

高齢者施設で生活をしている認知症高齢者の生活を把握し、QOLがより向上するための看護師の役割を理解すると共に、その支援のあり方を学ぶ。

到達目標

1. 対象（認知症高齢者）の生活を把握することができる。
2. 認知症が生活やライフスタイルに及ぼす影響を理解することができる。
3. 対象の生活のしづらさを理解することができる。
4. QOLを向上するために必要な社会資源を考えることができる。
5. 高齢者施設における看護師の役割について理解することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／協働する力

授業計画

1. 臨地実習施設でのオリエンテーション（特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設）半日
2. 臨地実習（認知症高齢者の生活支援）
3. 臨地実習（認知症高齢者の生活支援）
4. 臨地実習（認知症高齢者の生活支援）
5. 臨地実習（認知症高齢者の生活支援）
6. 臨地実習（認知症高齢者の生活支援）
7. 臨地実習（高齢者施設での看護師の役割を学ぶ）半日
8. 臨地実習（デイサービスの必要性と看護師の役割・多職種連携を学ぶ）
9. 実習のまとめ

*具体的な内容は「老年看護学実習Ⅱ実習要項」を参照する。

成績の評価

実習評価表（オリエンテーションで配布）にて評価する（100%）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

評価面談を行う。

自己学習

関連する授業の復習を行い、臨地実習に臨む。
自己学習ノートの提出を求めることもある。

テキスト

関連する授業で使用したテキストを参照する。

参考資料

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井、森岡、川添：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

森岡：5号館7階C710号室

川添：5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp

講義コード	4N715011
講義名	救命救急看護学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開分野
科目ナンバリング	N4-4406
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 阿部 香織	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

阿部香織 神戸美輪子

目的

急病や事故、災害などによる健康状態の破綻は、急激に生命危機に陥ることが多く、そのような状況にある人々を救うことを救命救急医療の役目としている。その救命救急医療の一部に救急看護が位置づけられる。そこで本講義では、救急医療及び救急看護の基礎的な知識を学修し習得することを目的とする。

到達目標

1. 救急医療の現状と課題、その中の看護の役割を理解する。
2. 救急患者と家族の心理的援助の必要性について理解する。
3. 救急患者の観察方法ならびに主要症状への看護を理解する。
4. 救急医療の実際と認定看護師の役割を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. 救急医療の現状と課題、救急医療における看護（神戸）
2. 救急医療の実際と認定看護師の役割（外部講師）
3. 救急看護の対象の理解、救急看護体制と看護の展開（阿部）
4. 救急患者の観察とアセスメント（阿部）
5. 主要病態に対する救急処置と看護...心肺停止状態への対応、意識障害への対応（阿部）
6. 主要病態に対する救急処置と看護...呼吸障害への対応、急性腹症への対応（阿部）
7. 主要病態に対する救急処置と看護...外傷への対応、中毒への対応（阿部）

成績の評価

試験80%、レポート課題等20%、総合的に判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範解答を出す。

テキスト

「系統看護学講座 別巻 救急看護学」（医学書院）

参考資料

1. 成人看護学 急性期看護Ⅱ救急看護 南江堂
- 2.

オフィスアワー

火曜日 13:00~17:00

水曜日 13:00~17:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 共同研究室

kaori-abe@kansai.ac.jp

講義コード	4N716011
講義名	クリティカルケア論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4407
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 児嶋 章仁	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

児嶋章仁〔看護師〕

川島孝太〔看護師〕

目的

クリティカルケアとは生命の危機的状況にある対象者への救命治療を意味し、その看護は突発的な事故や重篤な疾病、手術などによるクリティカルな状況に対して専門的かつ集中的に行われる。本講義ではクリティカルな状況にある対象者の心身の状況を知り、アセスメントの方法や重症化の回避、早期回復に向けた看護援助を理解する。また、生命維持装置などの先端医療や患者家族への精神的援助、チーム医療について考える。

到達目標

1. クリティカルケアが必要な対象者とその特徴について理解する。
2. クリティカルケアにおける看護師の役割について述べるができる。
3. クリティカルケアに必要な看護技術について知る。
4. クリティカルな状況にある患者とその家族への援助について理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. クリティカルケアとは クリティカルケア看護の特性と対象者の特徴（児嶋）
2. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア① 呼吸障害とケア（児嶋）
3. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア② 循環障害・補助循環装置とケア（児嶋）
4. クリティカルケアに必要な看護技術（児嶋）
5. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア③ 創傷・熱傷とケア（児嶋）
6. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア④ 感染症、凝固・線溶系障害とケア（川島）
7. クリティカルケアにおける精神的援助とエンド・オブ・ライフ・ケア（児嶋）

成績の評価

試験80%、授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業計画を参考に既習の成人看護学および基本的な人体の構造と機能について復習しておくこと。

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習が必要です。

テキスト

「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」(医学書院)

参考資料

「系統看護学講座 別巻 救急看護学」(医学書院)

「成人看護技術」(南江堂)

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C719研究室

a.kojima@kansai.ac.jp

講義コード	4N717011
講義名	先端医療の現状
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4410
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 水越 正人	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

水越正人（医師）

目的

これまで学んだ保健看護学・医学を病因・病態から治療に至るまでをbrush upし、最新の基礎的・臨床的進歩を学ぶこと。

到達目標

1. 主要な疾患の病因・病態・症状・検査・治療を説明できる。
2. 現代社会において直面する疾病について、その問題点を踏まえて最新の知見について説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／自己研鑽力

授業計画

1. これまで学んできた臨床病態学・治療学のブラッシュアップを行う。
ブラッシュアップには多肢選択式客観的試験や症例を用い、知識を確認する。
その上で、新しい知見を含めた考察を行う。
2. 健康問題に関する最近の話題について最新研究データなどを提示してディスカッションを行う。

成績の評価

筆記試験50%、授業内評価50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示し、それらの解説を実施する。

履修上の注意

これまでに学修した医学・看護学について見直せるようにしておくこと。

テキスト

講義内で適宜配布する。

参考資料

1年次から学んだ各テキスト

講義コード	4N738011
講義名	看護にいかす手技療法
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4408
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山本博司（鍼灸師・あま指師）

目的

東洋医学における手技療法は2500年前から応用され進化しながら現在に至っている。東洋医学では患者の自然治癒力を最大限に引き出すことを考えている。それが疾病を治すことの本質であると考えている。この授業では、出来るだけ多くの手技療法を紹介し、それらの本質を解説する。身近な症状を改善するように手技療法の実習も行う。

到達目標

手技療法の長所、短所を理解し、患者がどのようなときに、どのように用いるかを判断できるようになる。
手技療法を行うときに、患者にどのように接し、どのように話すべきかを判断できるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. 東洋医学総論①
2. 東洋医学総論②
3. 手技療法総論①
4. 手技療法総論②
5. あん摩①理論
6. あん摩②実技
7. あん摩③実技
8. マッサージ①理論
9. マッサージ②実技
10. マッサージ③実技
11. 指圧①理論
12. 指圧②実技
13. 指圧③実技
14. その他の手技療法
15. 手技療法まとめ

成績の評価

授業中での試験で評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習「を行うこと。

履修上の注意

授業中に感想・意見などを求められたら、積極的に話すこと。
新しい概念を積極的に考える。
実習中に相手の嫌がることは言わない、しないこと。

テキスト

配布資料

参考資料

適宜、紹介する。

オフィスアワー

月曜日・水曜日（12：15～13：00）、前もって連絡いただければ出来るだけ対応致します。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 312号室

講義コード	4N740011
講義名	総合看護学演習
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N4-4106
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

保健看護学科看護系教員全員

目的

これまで学修したさまざまな知識や技術を振り返り、統合することにより、保健看護学科のディプロマ・ポリシーにあげている能力が備わっていることを確認するとともに、看護の実践者としての自覚を高める。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されており、看護学を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身につくよう展開する。

到達目標

1. 多様な人々と関係性を構築することができる。
2. 看護の専門知識を振り返り、統合することができる。
3. 科学的な思考に基づいた判断力と実践力が発揮できる。
4. 看護専門職としての自覚を持ち、課題や問題に主体的に取り組むことができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. オリエンテーション（岩井）
2. 1年生へのプレゼンテーションの説明・準備（中納）
3. 模擬面接（キャリア支援）
- 4・5. 国家試験対策講座（外部講師）
- 6・7. 文献検索の方法（外部講師）
8. プレゼンテーション準備（各担当）
- 9・10. 社会人基礎力をつけよう（外部講師）
11. 侵襲性の高い看護技術演習①（中納・基礎）
12. 1年生へのプレゼンテーション
- 13・14. 海外で活躍するナースから（外部講師）
- 15・16. 侵襲性の高い看護技術演習②③（中納・基礎）
17. OSCEガイダンス（岩井）
18. 基礎的な知識の確認試験100問（前期定期試験期間）
- 19・20. キャリア支援 卒業生に聞く新人ナースの心得（平尾）
- 21・22. OSCE（岩井・老年）
- 23・24. OSCE 振り返り・評価（岩井・老年）

25～26. 国家試験対策講座 (外部講師)
27・28. 社会としての心得 (外部講師)
29・30. 国家試験対策講座 (外部講師)

成績の評価

後期定期試験で評価する (100%)。詳細はオリエンテーションで説明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

指定しない。

参考資料

授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

講義コード	4N741011
講義名	公衆衛生看護管理論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4207
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし
非常勤	清水 一二三	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

清水一二三〔保健師〕

目的

住民ニーズの施策化および地域ケアの展開と質の保証、保健師の人材育成、公衆衛生看護における管理的機能について理解するとともに、保健師の役割および専門的自律について考える力を養う。

到達目標

1. 住民ニーズの施策化および地域ケアの継続的・包括的展開とサービス保障について理解できる。
2. 公衆衛生看護活動における事例・地区・事業・予算・組織運営・情報等に関する管理機能を理解できる。
3. 公衆衛生看護活動における健康危機管理について理解できる。
4. 保健師の人材育成について理解し、専門的自律について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

1. 公衆衛生看護管理の目的と機能
2. 公衆衛生看護管理と情報管理
3. 組織運営と看護管理
4. 住民・多機関・多職種との連携と協働、サービスの質保証
5. 住民ニーズの施策化および地域ケアの継続的・包括的展開
6. 公衆衛生看護管理と危機管理
7. 公衆衛生看護活動と人材育成

成績の評価

小テスト・レポート等70%、授業への取り組み度30%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
既習科目について復習し、下記内容の理解を深めておくこと。

1. 地方自治
2. 政策・施策・事業について
3. 情報管理と個人情報保護
4. 人材育成

その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読しておくこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。

テキスト

「公衆衛生看護学.jp 第4版」（インターメディカル）

参考資料

適宜紹介する。

講義コード	4N742011
講義名	公衆衛生看護学実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	5
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4208
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕
 室谷牧子〔保健師〕
 西井崇之〔保健師〕

目的

保健所・保健センターにおける保健活動および保健・医療・福祉の連携、住民との協働活動、健康危機管理について学び、個人・家族・集団・地域に対する保健師の支援方法・支援技術、保健師の役割を理解するとともに、住民の主体的な健康課題への取り組みを支援するための基礎的能力を養う。また、学校および産業における保健活動の実際を知り、保健所・保健センターとの連携について考えるとともに、保健師の役割を考察する力を養う。

到達目標

1. 地域診断により地域の健康課題を明らかにし、必要な支援について考えることができる。
2. 地域住民の健康づくりおよび健康危機管理における保健・福祉サービスの実際を知り、保健所・保健センターの機能および役割を理解できる。
3. 個人・家族・集団・地域の健康課題を解決するための保健師の支援方法および支援技術を理解できる。
4. 家庭訪問および健康教育を通して、住民が主体的に健康課題を解決するための基本的な保健指導技術を習得できる。
5. 関係機関・職種の連携および住民との協働活動の必要性を理解し、地域ケアシステム構築における保健師の役割について考察できる。
6. 学校および産業における保健活動の実際を知り、保健所・保健センターとの連携について考えるとともに保健師の役割を考察できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

- 6月に保健所・保健センターにて4週間の実習を行う。
 9月に小・中学校または健康管理事業所にて1週間の実習を行う。

詳細は実習要項参照

成績の評価

実習評価表に基づき行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習終了後の個人面接において、評価の低い項目に関し指導を行う。

自己学習

3年次までに履修した公衆衛生看護学関連科目について復習しておくこと。

また、実習で行う家庭訪問、健康教育、健康相談、その他参加する保健事業については事前に予習を行うこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学.JP 第4版」(インターメディカル)
2. 「地域保健ノート2018」(大阪公衆衛生協会)
3. 「お母さんがもっと元気になる乳児健診」(メディカ出版)
4. 「国民衛生の動向2018/2019」(厚生労働統計協会)
5. その他、公衆衛生看護学に関連する授業での配布資料。

参考資料

適宜、紹介する

オフィスアワー

平尾：水曜12:10～13:00

室谷：水曜12:10～13:00

西井：水曜12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

平尾：5号館7階C711研究室・kyo.hirao@kkansai.ac.jp

室谷：5号館7階C709研究室・muroya@kansai.ac.jp

西井：5号館7階C721研究室・nishii@kansai.ac.jp

講義コード	4N743011
講義名	公衆衛生看護学研究
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	公衆衛生看護学分野
科目ナンバリング	N4-4209
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕
 室谷牧子〔保健師〕
 西井崇之〔保健師〕

目的

授業および実習において生じた地域保健に関わる疑問や課題を、研究の一連のプロセスを通して科学的に探究することにより、研究の基礎的能力と保健師としての多角的な視点を養う。

到達目標

1. 授業および実習において生じた疑問や課題に関する文献検討を行うことができる。
2. 文献から得られた知見をふまえ、自身の研究課題を明確化できる。
3. 研究課題に対する研究目的・方法を考え、研究計画書を作成できる。
4. 研究における倫理的配慮をふまえ、データ収集および研究を遂行できる。
5. 収集したデータを分析し、結果をまとめ、考察することができる。
6. 上記1～6について論文形式で記述することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. ガイダンス
- 2～7. 文献検討
8. 研究課題の明確化
- 9～15. 研究計画書の作成
- 16～18. データ収集
- 19～23. データ分析、まとめ
24. 研究発表
- 25～30. 論文作成

成績の評価

レポート90%、授業への取組み度0%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

- ・授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行う。

- ・研究方法論基礎の学習内容を復習しておく。
- ・研究で取り組む疑問あるいは課題に関する文献をしっかりと読み込むこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。

テキスト

指定しない

参考資料

適宜、紹介する。

オフィスアワー

平尾：水曜12:10～13:00

室谷：水曜12:10～13:00

西井：水曜12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

平尾：5号館7階C711研究室・kyo.hirao@kkansai.ac.jp

室谷：5号館7階C709研究室・muroya@kansai.ac.jp

西井：5号館7階C721研究室・nishii@kansai.ac.jp

講義コード	4N750011
講義名	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4302
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子（助産師）、和田薫（助産師、日本アロマセラピー学会認定臨床看護師）矢本希夫（医師）、奥井静（不妊症看護認定看護師）、後藤きよみ（臨床検査技師、日本超音波学会認定超音波検査士）、町谷安紀（薬剤師）、坂口俊二（はり師、きゅう師）

目的

妊娠経過を的確に助産診断するための知識と技術、正常からの逸脱の早期発見と異常への対処について学ぶ。また、妊婦の身体的・心理社会的特性を理解し、妊婦とその家族が妊娠を喜び、より快適で満足がいくマタニティライフが過ごせるような妊婦ケアについて学ぶ。

到達目標

1. 助産診断・技術学の基礎的な考え方を理解する。
2. 妊娠経過が正常であることを診断でき、正常からの逸脱が識別できる。
3. 妊婦とその家族への身体的・心理社会的側面を診断できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 妊娠期の助産診断・技術学の概要（井上）
2. 妊娠の生理と確定診断（井上）
3. 妊娠経過と産科学的診断（井上）
4. 妊娠期の心理社会的変化とアセスメント（井上）
5. 妊婦への支援 親になる支援（井上）
6. 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠（井上）
7. 遺伝と遺伝疾患 出生前診断（矢本）
8. 生殖補助医療（奥井）
9. 妊娠経過の診断に必要な検査（超音波画像診断）（後藤）
10. 妊娠経過の診断に必要な検査（超音波検査の実際）（後藤）
11. 妊娠期に行われる産科手術（矢本）
12. 周産期と薬剤①（町谷）
13. 周産期と薬剤②（町谷）
14. 周産期のアロマセラピー（和田）
15. 東洋医学と助産 助産技術に応用するツボ療法（坂口）

成績の評価

定期試験80%、課題レポート・授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、課題レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。
母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱの復習を行って臨む。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座2 基礎助産学(2) 母子の基礎科学(医学書院)
助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学(医学書院)
助産学講座4 基礎助産学(4) 母子の心理社会学(医学書院)
助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ (1) 妊娠期:医学書院

参考資料

助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア(日本看護協会出版会)
病気がみえる 産科(メディックメディカ)
実践マタニティー診断 第4版(医学書院)
今日の助産

オフィスアワー

水・金 12:30~13:00(井上)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C712研究室(井上) ・ k.inoue@kansai.ac.jp

講義コード	4N750021
講義名	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	助産学分野
科目ナンバリング	N4-4303
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 有馬 美保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

有馬美保（看護師・助産師）、天川一郎（医師）、矢本希夫（医師）

目的

分娩の原理と経過、分娩期の診断に必要な知識と技術、産婦の主体性を尊重し安全で快適な分娩を目指した産婦のケア、異常分娩および緊急事態の予測と対応、産科手術・麻酔および産科医療処置について学ぶ。また、胎児の健康状態アセスメント、ハイリスク新生児の救急蘇生について学ぶ。

到達目標

1. 分娩の原理と経過、分娩の診断に必要な知識と技術、産婦の主体性を尊重し、安全で快適な分娩を目指した産婦のケアを理解する。
2. 異常分娩および緊急事態の予測と対応、産科手術・麻酔および産科的医療処置について理解する。
3. 胎児の健康状態のアセスメントについて理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 分娩の生理（有馬）
2. 分娩期の心理社会的変化（有馬）
3. 分娩期の助産診断（1）（有馬）
4. 分娩期の助産診断（2）（有馬）
5. 分娩介助法（1）（有馬）
6. 分娩介助法（2）（有馬）
7. 付属物の検査と計測／出生直後の新生児のケア（有馬）
8. 分娩期のフィジカルアセスメントとケア（有馬）
9. 産婦の支援（有馬）
10. 分娩期の異常・偶発疾患（1）（天川）
11. 分娩期の異常・偶発疾患（2）（天川）
12. 産科手術および産科的医療処置（矢本）
13. ハイリスク・異常分娩時の看護支援（井上）
14. 縫合法（1）（天川）
15. 縫合法（2）（天川）

成績の評価

定期試験 %、課題レポート・授業への取り組み度 %で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験終了後問題解説を行う。

提出レポートにコメントし返却する。

自己学習

授業1コマにつき、2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱを復習して講義に臨む。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座7助産診断技術学Ⅱ(2)分娩産褥期(医学書院)

今日の助産(南江堂)

参考資料

助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア(日本看護協会出版会)

実践マタニティ診断(医学書院)

オフィスアワー

月～金 12:10～13:10 (有馬)

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C709研究室(有馬) ・ arima@kansai.ac.jp

講義コード	4N750031
講義名	助産診断・技術学Ⅲ（産褥期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4304
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

三宅美恵子（助産師）、和田芳郎（医師）、小谷志穂（助産師・新生児集中ケア認定看護師）

目的

産褥期および新生児期の助産診断の知識と技術、褥婦および新生児のケア、わが子を受容し親役割を獲得するプロセスへの支援、育児を支援するケアと体制などについて学ぶ。
また、受胎調節における指導計画を立案し実践に必要な技術について学ぶ。

到達目標

1. 褥婦・新生児・乳児の健康状態を診断できる。
2. 褥婦の心理社会的な側面について診断できる。
3. ハイリスク褥婦やハイリスク新生児のケアについて学ぶ
4. 産後の各受胎調節法の特徴を理解し、家族計画実施の支援について述べることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 産褥期の正常な経過（三宅）
2. 産褥期の健康診査・助産診断（三宅）
3. 産褥期の支援（三宅）
4. 産褥期の心理社会的変化（三宅）
5. 産褥期の異常・偶発疾患 産褥熱のアセスメントと支援 帝王切開（三宅）
6. ハイリスク・異常褥婦のアセスメント 母親役割獲得の順調な経過と支援（三宅）
7. 母乳育児支援（三宅）
8. 家族計画（三宅）
9. 新生児のフィジカルアセスメント（三宅）
10. 新生児の家庭生活への移行とフォローアップ（三宅）
11. 乳幼児の発育発達と健康診断（三宅）
12. 乳幼児の健康診査の実際①（三宅）
13. 乳幼児の健康診査の実際②（三宅）
14. ハイリスク新生児の主要な病態とケア（和田）
15. ハイリスク児の支援（小谷）

成績の評価

定期試験80% 課題レポート・授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、課題レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学(医学書院)
助産学講座4 基礎助産学(4) 母子の心理社会学(医学書院)
助産学講座5 助産診断技術Ⅰ(医学書院)
助産学講座7 助産診断技術学Ⅱ(2) 分娩産褥期(医学書院)
助産学講座8 助産診断技術学Ⅱ(3) 新生児乳幼児(医学書院)
家族計画指導の実際(医学書院)
母乳育児支援スタンダード第2版(医学書院)

参考資料

今日の助産(南江堂)
新生児学入門(医学書院)
病気がみえる 産科(メディックメディカ)

オフィスアワー

水、金 12:30~13:00 (井上)

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C712研究室(井上・k.inoue@kansai.ac.jp)

講義コード	4N751011
講義名	助産診断演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4305
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子（助産師）、有馬美保（助産師）、三宅美恵子（助産師）

目的

妊婦・産婦・褥婦と新生児およびその家族に必要な助産診断を理解し、ペーパーペイシエントによる助産診断過程、助産実践課程を展開することができる。特に、分娩期での助産診断は時系列を追って情報収集と統合、ケアの立案ができることを目指す。

助産診断に基づいた保健指導を修得する。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥期・新生児期に応じた助産診断・実践過程の展開方法を修得する。
2. 助産診断に基づいた保健指導を修得する。
3. 家族計画指導について理解し、保健指導の演習を実施できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 助産活動を支える理論・技術の基本（井上）
2. 相談・教育の技術（有馬）
3. 相談・教育活動の実際（有馬）
4. 健康教育（井上）
5. 思春期女性への援助（有馬）
6. 助産診断の概要（井上）
7. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 妊娠期の助産診断・保健指導（井上）
8. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 分娩期の助産診断・保健指導①（有馬）
9. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 分娩期の助産診断・保健指導②（有馬）
10. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 産褥期の助産診断・保健指導①（三宅）
11. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 産褥期の助産診断・保健指導②（三宅）
12. 家族計画の実際（三宅）
13. 家族計画指導 グループワーク（三宅）
14. 家族計画 まとめ（三宅）
15. 産後1ヶ月の助産診断・保健指導（三宅）

成績の評価

妊娠期・分娩器・産褥期・新生児期の課題レポート90%、課題発表等の授業への取り組み度10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
課題レポートの解説を実施する。
自己学習
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
助産師課程履修者は必修科目である。
テキスト
助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ(医学書院) 実践マタニティ診断(医学書院)
助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期(医学書院)
助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩産褥期(医学書院)
助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ(3) 新生児乳幼児(医学書院)
参考資料
家族計画指導の実際(医学書院)
授業内で適時紹介
オフィスアワー
水・金 12:30~13:00 (井上)
月~金 12:10~13:10 (有馬)
研究室・授業用E-mail
5号館7階C712研究室(井上)・k.inoue@kansai.ac.jp
5号館7階 C709研究室(有馬)・arima@kansai.ac.jp

講義コード	4N752011
講義名	助産技術演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4306
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子（助産師）、有馬美保（助産師）、三宅美恵子（助産師）、小谷志穂（助産師・新生児集中ケア認定看護師）

目的

妊娠期・産褥期・新生児期の健康診査やケアに必要な助産診断技術や正常分娩の基本的介助技術法ができる知識と技術を修得する。

到達目標

1. 妊婦健康診査や保健指導に必要な助産技術が修得できる。
2. 産婦及び胎児の健康状態のアセスメントとケアに必要な助産技術を修得できる。
3. 分娩介助の基本的知識と分娩介助技術を理解し、分娩介助の技術を修得する。
4. 出生直後の新生児観察とケアに必要な助産技術を修得できる。
5. 褥婦のフィジカルアセスメント、心理的・社会的側面に対する助産技術を修得できる
6. 新生児のフィジカルアセスメントに必要な助産技術を修得できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 妊婦の健康診査に必要な技術①（井上）
2. 妊婦の健康診査に必要な技術②（井上）
3. 正常分娩の基本的介助法 準備（有馬）
4. 正常分娩の基本的介助法 清潔野作成（有馬）
5. 正常分娩の基本的介助法 娩出介助（有馬）
6. 正常分娩の基本的介助法 付属物娩出 産後2時間まで（有馬）
7. 正常分娩の基本的介助法 産後2時間まで（有馬）
8. 分娩進行に応じた産婦への援助 産痛緩和（有馬）
9. 褥婦のケアに必要な技術（三宅）
10. 母乳育児支援①（三宅）
11. 母乳育児支援②（三宅）
12. 新生児ケアに必要な技術①（三宅）
13. 新生児ケアに必要な技術②（三宅）
14. ハイリスク新生児ケアに必要な看護技術 新生児集中ケア認定看護師（小谷）
15. 母子と運動・補完代替医療（マタニティヨーガ・ベビーマッサージ）（有馬）

成績の評価

分娩介助の技術試験70%、妊娠期・産褥期・新生児期の技術試験30%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

技術試験結果の解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学（医学書院）
助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期（医学書院）
助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期産褥期（医学書院）
助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児（医学書院）

参考資料

授業内で適時紹介

オフィスアワー

水・金 12：30～13：00（井上）

月～金 12：10～13：10（有馬）

研究室・授業用E-mail

5号館7階C712研究室（井上）

5号館7階C709研究室（有馬）

講義コード	4N753011
講義名	助産管理Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4307
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子（助産師）、有馬美保（助産師）、藤原鏡子（助産師）

目的

助産所や病院における助産業務の管理、助産業務に関連する法規と責任、助産所の管理運営（経営を含む）と連携、リスクマネジメントについて学ぶ。また開業助産師から助産所運営の実際について学ぶ。

到達目標

1. 助産業務管理、助産業務に関連する法的責任および倫理を理解する。
2. 助産管理業務の実際を理解する。
3. 病院および助産所の管理運営と連携について理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

1. 助産管理の基本（井上）
2. 関係法規と助産師の義務・責任(井上)
3. 周産期医療システムとリスクマネジメント（井上）
4. 病院における助産業務管理(井上)
5. 助産所における助産業務管理（有馬）
6. 助産所における助産運営の実際（藤原）
7. 国際母子保健（井上）
8. 助産師と教育（井上）

成績の評価

定期試験80% 課題レポート、授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験と課題レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座10 助産管理 (医学書院)
助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 (医学書院)
助産学講座1 基礎助産学 (1) 助産学概論 (医学書院)

参考資料

講義内で適時紹介する。

オフィスアワー

水・金 12:30~13:00(井上)

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C712研究室 (井上) ・ k.inoue@kansai.ac.jp

講義コード	4N753021
講義名	助産管理Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	助産学分野
科目ナンバリング	N4-4308
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 有馬 美保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子、三宅美恵子

目的

日本の母子保健の動向や地域母子保健活動を学び、今後の助産活動と役割について理解する。災害時の母子支援活動について学ぶ。女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康課題に対処する能力を養う。母子とその家族における心理社会的発達段階を学び、健康課題に対する支援を理解する。

到達目標

1. 母子保健の動向を理解し、課題について説明できる。
2. 災害時の母子支援活動、国際支援について理解できる。
3. 女性のライフサイクル各期における健康課題と看護活動について説明できる。
4. 周産期にある女性と子ども、家族への支援を学ぶ。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

1. 母子保健の動向と課題
2. 地域母子保健活動の展開
3. 災害時の母子支援
4. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する支援の実際 (1)
5. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する支援の実際 (2)
6. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する心理・社会的課題 (1)
7. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する心理・社会的課題 (2)
8. 家族・地域のネットワーク／母親・父親・子どもと社会

成績の評価

定期試験80%、課題レポート、授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験終了後に問題を解説する。
レポートにコメントし、返却する。

自己学習

授業1コマにつき、2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座1 基礎助産学 (1) 助産学概論 (医学書院)
助産学講座2 基礎助産学 (2) 母子の基礎科学 (医学書院)
助産学講座4 基礎助産学 (4) 母子の心理社会学 (医学書院)
助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 (医学書院)

参考資料

授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

月～金 12:10～13:10 (有馬)

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C709研究室 (有馬)
arima@kansai.ac.jp

講義コード	4N754011
講義名	助産学実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	11
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4309
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）、井上京子（助産師）、有馬美保（助産師）、三宅美恵子（助産師）、和田薫（助産師） 笠松堅實（医師） 和田芳郎（医師）

目的

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に対し、助産学の理論と技術を生かし、助産診断を行いながら助産過程を展開し実施する能力を習得する。

安全な助産ケアの提供と異常の早期発見および対処ができる判断力、問題解決能力、実践力を養うとともに、産科医療チームの一員としての助産師の責務や役割、他職種との協働について学ぶ。

到達目標

1. 妊娠期の助産診断・実践過程を展開できる。
2. 分娩期の助産診断・実践過程を展開できる。
3. 産褥期及び新生児の助産診断・実践過程を展開できる。
4. 病院・助産所における助産業務や助産管理の実際を学び、地域母子保健活動での助産師の役割を理解できる。
5. 地域母子保健活動における保健・医療・福祉の連携の実際から、母子保健医療チームの一員としての助産師の役割を理解する。
6. バッグ・マスクや胸骨圧迫を中心とした基本的な新生児蘇生法を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

詳細については、実習要項を参照

成績の評価

実習評価表に基づいて評価する。

自己学習

1. 指定されたテキスト、実習に関連する文献について事前学習する。
2. 分娩介助法など基本的な助産技術について事前学習する。
3. 事前学習については別途説明する。

履修上の注意

助産師課程履修者は必修科目である。

テキスト

助産学講座5	助産診断・技術学Ⅰ（医学書院）
助産学講座6	助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期（医学書院）
助産学講座7	助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期産褥期（医学書院）
助産学講座8	助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児（医学書院）
助産学講座9	地域母子保健・国際母子保健（医学書院）
助産学講座10	助産管理（医学書院）

参考資料

別途、提示する

オフィスアワー

水・金 12：30～13：00（井上）

月～金 12：10～13：10（有馬）

研究室・授業用E-mail

5号館7階C712研究室（井上）・k.inoue@kansai.ac.jp

5号館7階C709研究室（有馬）・arima@kansai.ac.jp

講義コード	4N755011
講義名	助産学研究
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4310
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井上京子（助産師）、有馬美保（助産師）、三宅美恵子（助産師）

目的

既習の知識と実習での体験をもとに、分娩介助実習で継続的にかかわった母子への援助を自己のテーマにそって振り返り、事例研究として論文にまとめる。

到達目標

1. 事例研究の基本的手法が理解できる。
2. 助産実践の諸現象を研究的視点で分析・解釈できる。
3. 研究論文が作成できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. 授業ガイダンス（井上）
2. 事例研究の進め方（井上）
- 3～6. 文献検索、研究テーマの明確化（井上）
- 7～14. 研究の実際、各指導教員のもとで指導（井上、有馬、三宅）
15. 中間発表会（井上、有馬、三宅）
- 16～27. 研究の実際、各指導教員のもとで指導（井上、有馬、三宅）
- 28～29. 研究発表会（井上、有馬、三宅）
30. まとめ（井上、有馬、三宅）

成績の評価

研究発表40%、研究論文50%、授業への取り組み度10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

研究発表、研究論文について解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

助産学講座1 基礎助産学（1）助産学概論（医学書院）

参考資料

授業内で適時紹介

オフィスアワー	
水・金	12:30~13:00 (井上)
月~金	12:10~13:10 (有馬)
研究室・授業用E-mail	
5号館7階	C712研究室 (井上) • k.inoue@kansai.ac.jp
5号館7階	C709研究室 (有馬) • arima@kansai.ac.jp

講義コード	4N791011
講義名	看護学研究
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4411
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

保健看護学科の看護の専任教員

目的

看護に関する知識や技術及び倫理について多くのことを学んできた。看護を学ぶ中で「おや？」と思うことや「なぜだろう？」と感じたことはないだろうか。その小さな疑問を少しずつ解き明かし、よりよい看護を探求することが看護学研究である。さまざまな課題を発見し、問題意識を持ち、探求する力を高め、看護を創造するための基礎的な能力を養う。

到達目標

1. 自分の意見を述べ討議することができる。
2. 看護における疑問や課題を明確にする。
3. 課題にそった文献を検討する。
4. 課題にふさわしい研究方法を検討することができる。
5. 研究における倫理的配慮について述べるすることができる。
6. 研究計画書を作成することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. 授業ガイダンス（授業の進め方）
 2. ～5. 看護における疑問や課題の明確化
 6. ～10. 文献検討を行い、研究テーマを明確にする
 11. ～15. 研究テーマにそった研究方法を検討し明らかにする
 16. ～20. 具体的なデータ収集の方法を検討し、実現可能な研究計画を立案する。
倫理的配慮を確認して研究対象者への説明・同意の手続きなどを計画する。
 21. ～26. 研究計画書の作成
 27. ～30. 研究計画書の訂正や追加を行い、計画書の質を高め完成させる。
- 全ての授業は、ゼミ形式で行う。
ゼミは、総合看護学実習のグループを基本にして編成する。

成績の評価

レポート（研究計画書）70%と授業への取り組み度^{30%}で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

自己学習

- ・授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行う。
- ・授業の進度に合わせて事前準備を行って授業に参加する。

履修上の注意

保健師課程を選択した学生は「公衆衛生看護学研究」を、助産師課程を選択した学生は「助産学研究」を選択する。

テキスト

指定しない。

参考資料

授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

第1回目の授業で、担当教員のオフィスアワーの説明を受ける。

研究室・授業用E-mail

各ゼミの指導教員の研究室。授業用E-mailは第1回目の授業で提示する。